

地域で必要とされる 福祉コミュニティづくりに向けた発信事業

特定非営利活動法人 共働学舎

〒399-9422 長野県北安曇郡小谷村大字千国乙 5155 番地

助成事業の概要

創設者の呼びかけのもと、福祉制度を使わず半世紀、希望者を全て受け入れ継続して来たが、メンバーとスタッフの高齢化により次世代に必要とされる場へ変わるため、当法人から巣立った外部有志（三重県志摩市在住のアート指導者）を講師に迎え研修を実施。地域役割と展望を明確にし、理解共感を得られるようメンバーとの制作協業により印刷成果物をつくり、これまで自家消費と支援者購入だった生産物を外部販売につなげるオリジナルパッケージ成果物を目指した。実施した時期と内容は以下の通り。

(1) 遠方講師を含むオンライン学習会と準備を 5 回開催（各 2 時間）

7/13（木） 8/7（月） 9/24（日） 10/18（水）
11/22（水）

(2) 立屋共働学舎にて対面実践講座とワークショップを 3 回開催（6 日間各 3 時間）

1 回目 6/14（水）15（木）2 回目 7/20（木）21（金）
3 回目 12/6（水） 7（木）

その後も随時オンラインミーティングを重ね、事業意義、成果物制作に向け話し合いを重ねた。2024 年 3 月末に成果物を印刷納品、4/6（土）に明日館（東京都豊島区池袋）にて法人 50 周年の集いの場で本事業を報告、成果物を披露した。

事業の成果

(1) 5 回にわたるオンライン学習会により、創設者の理念と半世紀の活動を振り返り、小谷村の

地域と、若い人たちに求められていることは何かを話し合った。創設者の言葉そのままを大切に守ってきたが、若い人たちに理解してもらうのは難しく、今の時代に受け入れられるわかりやすい表現に変え表現していくことを確認し、これまでメンバーとスタッフと会員（支援者）で取り組んできたことを、外に開き地域の人たちと積極的に交わっていくことを確認した。また、一人ひとりのありのままを受け入れ、そこで奏でられる空気を共に感じてもらうことを表現していくこととした。ワークショップ準備、成果物に向けて zoom でも意見交換を繰り返した。

(2) 宿泊を伴う 3 回にわたる対面実践講座とワークショップにより、メンバーとスタッフの家族も普段と異なる創作活動に取り組むことができた。かつて生活を共にしていた講師により、メンバーの創作意欲や表現する喜びを引き出してもらうことができた。メンバーに描いてもらった作品を活かし、生産米をギフト用に小さなアート米袋にデザインすることで、外部の方に知っていただく手段のひとつにすることとした。また、7 月の実践講座の日に併せ、東京からドキュメンタリー映画の監督と撮影舞台となった福祉施設の理事長と副理事長らが訪問してくださり、メンバーとスタッフ、地域の方々を呼んで上映会と交流会を開くことができた。翌日には 1 時間半かけ真木まで登り宿泊体験をしてもらうことで、さらに理解と交流を深めることができた。

(3) 成果物として、メンバーの作品を活かしたギフト用ミニ米袋、説明用の紹介チラシを講師とメンバー、スタッフ、デザイナーらとで作成。法人

50 周年記念式典にて、支援者が多数集まる中で成果を展示。今後も機会をつくって外部に発信を継続していく。

■ 成果の広報・公表

(1) 法人の会報誌に本事業の取り組みについて紹介し、全国の支援者の方々にお知らせをしたところ、支援者や関係者から応援のコメントなどをいただいた。

(2) 2024 年 4 月 6 日、明日館(東京都豊島区池袋)での法人 50 周年記念イベントにて、成果物を公開した。外部の方と連携して発信できたことは初めてだった。

(3) メンバーやスタッフにとって、50 年継続して取り組んできた多様な人たとの共同生活による農業・酪農・工芸などが、世間一般では価値あることであると理解することができ、より積極的に発信と交流をすることで、次世代につないでいく必要性を確認できた。

■ 今後の展開

(1) 成果物を活かして外部への発信、販売、交流の機会につなげていく。

(2) メンバーが喜びを感じたり意欲的な気持ちになる、創作の時間と場を今後もつくっていく。

(3) 今後の創作活動を通して、新たな成果物も目指していく。

(4) 外部の方との交流やコラボできる機会を増やしていく。